平成22年4月27日

中央区教育委員会　委員長　鈴木　ゆか　様

社団法人　日本建築家協会（JIA）
関東甲信越支部　支部長　伊平　則夫
同　保存問題委員会　委員長　和田　昇三
同　中央地域会　代表　長谷川順持

明石小学校を始めとする「復興小学校」校舎の保存・活用に関する要望書

拝啓　時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。
貴区におかれましては、日頃より文化の発展と継承に深く理解をお示しになられていることに対し心より敬意を表します。また、当協会の活動にご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、貴区におきまして明石小学校(1926)、明正小学校(1927)、中央(旧鉄砲州)小学校(1929)3校の校舎建替計画が進められていると伺いました。ご高承のように、これらの小学校は1923(大正12)年の関東大震災で罹災した東京市立小学校校舎を鉄筋コンクリート造で改築したもので、「復興小学校」と呼ばれております。貴区におかれましては、同じ復興小学校である泰明(1929)、常磐(1929)の両小学校を東京都選定歴史的建造物とされると共に、惜しまれつつ廃校となった十思(1928)、京華(1929)両小学校の校舎を用途転用して活用することで、歴史的建造物の保存、再生、活用に先駆的業績を示してこられたと認識しております。

復興小学校の計画において、児童の安全面や衛生面を考慮した先進的な取り組みがなされたことは良く知られているところです。また、地域利用を考慮した体育館、校庭を中庭のように囲いこむ街区形の配置計画、都市計画と連携し校庭との一体的利用を意図して併設された小公園などは特筆すべき特徴で、これらの手法は現代の小学校が地域との関係を試行錯誤している状況において、よりその可能性が明らかになったと考えられます。
また、個々の小学校に関して述べれば、明石小学校は半丸柱の連続による伸び伸びとしたリズム感と、庇などに曲線を用いた優美な意匠の調和に目を惹かれます。現存する最初期の復興小学校であると共に、理想に近い配置計画が実現されている点でも極めて貴重です。明正小学校は敷地角に昇降口を配し、その壁面を大きな曲面とすると共に、校舎全体に水平の帯を廻すことで流れるような躍動感を与える雄大な造型感覚を備え、復興小学校らしい表現主義的な傾向を良く示す建築となっています。中央小学校はモダニズム(近代主義)建築の持つ明快な幾何学的形態への接近が見られ、建築思潮の変化が伺える造形となっています。また、現在でも公園との一体性が保持されていることは注目に値します。このように個々の学校ごとに丁寧な設計がなされていたことは、復興が急を要する事業であったことを考えれば驚くべき業績であり、中央区が現在において復興事業各時期における多様な復興小学校を有していることは、かけがえのない文化的資産であると考えられます。

地域の歴史と共に生き、多くの生徒が学んだ学び舎は、共同体の記憶を継承するためにも、地域の中で生きた形で使われていくことが大切であると考えます。老朽化や教育制度の変化といった種々の課題は、近年の歴史的建造物の保全・活用に関する技術的進歩の成果や、教育学と建築計画学の連携によって克服可能な課題と考えられます。
なにとぞ、これらの復興小学校を引き続き保存・活用することで優れた歴史的教育環境と都市景観を保全下さいますよう、お願い申し上げます。

なお、社団法人日本建築家協会関東甲信越支部、同　保存問題委員会、同　中央地域会は、「復興小学校」校舎の保存活用について、出来る限りの協力をさせて頂く所存である事を申し添えます。

敬具

社団法人 日本建築家協会
The Japan Institute of Architects
関東・甲信越支部
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA館
Tel.03-3408-8291　Fax.03-3408-8294